

# 特色ある区づくり事業「じゅんさい池みらいプロジェクト」

## 第4回 じゅんさい池みらい会議 会議概要

開催日時	令和3年7月12日（月）午後2時00分～3時50分
会場	新潟県立大学 2213演習室
出席委員	五十嵐委員、大坂委員、佐藤委員、長谷川委員、服部委員、山中委員
事務局	地域課長ほか同課より3名、区民生活課課長補佐ほか同課より1名、建設課長ほか同課より1名
概要	<p><b>【報告】</b></p> <p>前回会議の振り返り及び本プロジェクトの工程を確認した後、事務局より、以下の点について報告しました。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今年度4月から6月に実施した広報、PRについて</li><li>・本プロジェクトホームページに寄せられた意見について</li></ul> <p>五十嵐委員より、東山の下コミュニティ協議会で6月27日に実施した、東池の園芸スイレン、ヨシ等の刈取り作業について報告がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・水底のヘドロがスイレンの根茎や沈んだ倒木に絡みついているとあり、取り除くのは重労働だった。</li><li>・東池の整備活動は、目標を決めて計画的に行う必要があると感じた。</li></ul> <p><b>【議事】</b></p> <p>各議事における委員からの主な意見は以下のとおりです。</p> <p><b>&lt;基本的な考え方、方向性について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・資料1には目指す姿として4点記載されているが、それぞれが、東池を指すのか、西池を指すのか、全体的なことかを明記すべきではないか。</li><li>・じゅんさい池全体としてどのような姿を目指すのかを整理し、その下に、東池・西池の特長が入ると良いのではないか。</li><li>・ラムサール条約の基本的な考え方の柱は、「保全・賢明な利用・普及啓発」の3点。本プロジェクトも、この考え方を取り入れて整理してはどうか。「保全」というワードを入れて、持続可能なしくみを考えていけると良いのではないか。</li></ul> <p><b>&lt;各課題への取組み方針について&gt;</b></p> <p><b>(1) 園芸スイレン対策（水環境の保全）及び保全・整備活動の担い手について</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・資料3-2には、「ゆるやかなネットワーク」と記載があるが、現実的ではないのではないか。公園整備に関わっている団体は他にもあるので、地域、ボランティア、行政それぞれの役割の整理も必要だし、協議体を組織するのかなど具体的な検討事項を提案すべきではないか。</li></ul>

<p>概 要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミ協のクリーン大作戦と、公園愛護会の清掃活動が重複してしまい、日程や活動エリアを変更しなければならなかったことがあり、連携に課題があると感じた。どこかがリーダーシップをとってやれると良いと思う。</li> <li>・ 仕切り役も含め、どの主体が何をできるのかを整理する必要がある。いかに持続可能なしくみをつくるかが重要。</li> <li>・ 経費的なことを言えば、一般の公園管理経費以上の予算を行政が負担することは現実的でない。この中でやれるしくみをつくるのが、持続可能ということではないか。</li> <li>・ 特に東池は手が付けられない程園芸スイレンが広がっている状況だが、「できる範囲でやる」という程度で良いのか。経費の件は避けては通れないが、行政の予算がないならば、寄付などその他から調達するなどの議論も積極的にする必要はある。</li> <li>・ 経費も問題だが、じゅんさい池は地形的に重機を簡単に入れられないため大規模な作業が難しいという点も課題だと思う。</li> </ul> <p><b>(2) ホタルの人工飼育及びシダレザクラについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多くの方は「じゅんさい池といったらシダレザクラ、ホタル」というイメージでいると思う。どちらも継続が難しい状況とのことだが、この2つを同時にやめると影響が大きいのではないか。行政としての方向性は「やめざるを得ない」ということか。そうであれば、そのための説明や情報提供のステップを検討する必要がある。</li> <li>・ 全体の目指す姿として「憩いの空間」を謳うのであれば、季節の魅力としてホタルやシダレザクラをやめるとするのは矛盾するのではないか。</li> <li>・ 自然や環境は推移するもの。現状や課題を詳らかにし、市民が判断できる形が望ましいのではないか。ホタルが未来にわたりシンボルになり得るのかは疑問な部分もある。</li> <li>・ 「保全」とは、そのもの自体を残していくことだけではない。シダレザクラは、例えば株分けしたものを育てるといったようなことも保全の取組みと言えると思う。</li> <li>・ シダレザクラやホタルは長年親しまれているものには違いないが、公園の魅力として投入されたときとは、時代や時流が異なるように思う。</li> </ul> <p><b>&lt;その他&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページに様々な意見が寄せられていることが分かり良かった。中には、プロジェクトの総括的な意見もあり、今後も意見収集に努めてほしい。</li> <li>・ 整備活動に実際に参加し肌で感じることは大切だと思うので、まずは地元から参加者を広げたい。現在は東山の下コミ協が中心だが、まずは下山コミ協にお声掛けしたいので、一緒にやってみましょう。</li> </ul>
------------	---

概 要	<ul style="list-style-type: none"><li>・じゅんさい池を守るために、様々な取組みや議論がされていることを子どもたちへも伝えたい。それを子どもたちが知ることも、次代の担い手を育成・確保していくことにつながると感じた。</li><li>・「保全=Conservation」とは、誰と誰が手を組んでどういう状態を保っていくかを、合意形成をしながらつくっていくもの。人口や住宅が密集する中にこれだけの自然環境が残されていることは、ここにしかない価値があるといえる。人の手を入れていく部分と、自然の動植物が生育していける部分のバランスをとって他の潟のモデルになれると良いと思う。</li></ul>
-----	--